

二〇二四年度

早稲田大学文学部

転部試験問題

【科目名】 東洋哲学 コース

※解答は別紙(縦書)

【科目名】

古典中国語

問題一 次の文章A・Bを読み、後の設問に答えなさい。(返り点を省略した箇所がある)

A ①客有爲齊王畫者。齊王問曰、畫孰最難者。曰、犬馬最難。孰最易者。曰、鬼魅最易。夫犬馬、人所知也。②且暮睹於前、不可類之、故難。鬼魅、無形者、不睹於前、故易之也。

B 夫嬰兒相與戲也、以塵爲飯、以塗爲羹、以木爲裁。③然至日晚、必歸饜者、塵飯塗羹可_レ以戲、而不_レ可_レ食也。夫稱_レ上古之傳頌、辯而不_レ慤、道_レ先王仁義、而不_レ能_レ正_レ國者、此亦可_レ以戲、而不_レ可_レ以爲_レ治也。④夫慕_レ仁義、而弱亂者、三晉也。不_レ慕_レ而治強者、秦也。然而未_レ帝者、治未_レ畢也。

*塗 どころ。 *羹 あつもの。 *裁(し) 切った肉。 *饜 食事する。 *傳頌 伝えられた言葉と讃えられ言葉 *慤(かく) まことである。正しい。

問一 傍線部①②を漢字仮名混じりの書き下し文に直せ。

問二 傍線部③④を現代語に訳せ。

問三 A・Bそれぞれの文章の主旨を簡潔に記せ。

問題二 次の文章を読み、後の設問に答えなさい。(返り点を省略した箇所がある)

爾時佛在_レ舍衛國祇樹給孤獨園。爾時拘薩羅國有_二無住處村_一、有_二居士_一爲_二比丘_一作_二住處_一、常供_二給飲食_一、若在_レ此住_レ者當_レ聽_二一食_一。爾時有_二六群比丘_一。欲_レ往_二拘薩羅國無住處村_一。至_二彼住處_一經_二一宿_一得_二美好飲食_一。故復住_二第二宿_一復得_二美好飲食_一。彼六群比丘作_二如_レ是念_一。②我所以遊行_レ者正爲_レ食耳、今者已得。彼於_二此住處_一數數食。③時諸居士皆共譏嫌。此沙門釋子無_レ有_二厭足_一、不_レ知_二慚愧_一。外自稱言。我知_二正法_一。如_レ是有_二何正法_一。於_二此住處_一數數受_レ食、正似_下我曹常爲_二此沙門釋子_一供_中給飲食_上、我本爲_レ調_二給一宿住者_一耳。爾時諸比丘聞已、其中有_下④少欲知足、行頭陀、樂學戒、知慚愧者_上、嫌_二責六群比丘_一言。⑤云何六群比丘於此住處數數受食。諸比丘往_二世尊所_一、頭面禮_レ足在_二一面_一坐、以_二此因緣_一具白_二世尊_一。

問一 この人は、当初どのようなことをする意図だったのか。説明せよ。

問二 傍線部②を漢字仮名混じりの書き下し文にせよ。

問三 人々は、なぜ傍線部③のように反応したのか、説明せよ。

問四 「少欲知足」(傍線部④)の意味を説明せよ。

問五 傍線部⑤を漢字仮名混じりの書き下し文にせよ。

受験番号	
氏名	カナ
	漢字

この欄以外に受験番号、氏名を記入しないこと。
漢字氏名がない場合は、ひらがなで記入すること

転部試験 解答用紙

【東洋哲学】

【コース】

【科目名：古典中国】

【語】

——ここから記入すること——

問題一

問一 ①

②

問二 ③

④

問三 A

B

問題二

問一

問二

問三

問四

問五

総 点

--